

【この活動の概要】

主な活動	国際共同研究プロジェクト
実施時期	任期:2015年1月~2016年12月
協力者	Chair Person: Prof. Dr. G. Chroust (Johannes Kepler University of Linz, Austria) URL: https://de.wikipedia.org/wiki/Gerhard_Chroust

【KIRAS の概要】

KIRAS: オーストリアの危機管理研究プログラム (被害を減災する為の危機管理の国際共同研究)

URL: <http://www.kiras.at/home/>

【FFG の概要】

FFG: オーストリア政府研究資金 (日本政府の競争的研究基金である科学研究費と似た制度)

URL: <https://www.ffg.at>

【先生に直接聞いてみました】

Q はじめられた経緯は？

A 2013年国際システム科学学会において、G. Chroust 教授より、危機管理研究プロジェクトが提案され、被害を最小限に抑制する為の減災の共同研究をはじめました。海外研究者 10 名で構成されています。

Q 研究プロジェクトの具体的な活動内容は？

A 災害事象のプロセスである災害前(リスク)・災害時(クライシス)・災害後(レジリエンス)をケーススタディし、ICTを用いた減災シミュレーションをもとに、危機管理の為の政策や経営のあり方を共同研究しています。

Q このプロジェクトのこれまでの進捗・流れは？

A 国際システム科学学会をプラットフォームに共同研究しており、以下に進捗状況を Web 公表しています。

<http://iss.org/world/system/files/files/2012%20GSB.pdf>

<http://journals.iss.org/index.php/proceedings55th/article/view/1637>

Q この取組みのこれまでの成果は？

A 国際システム科学学会にて、全体と分担の研究成果について、以下に成果を Web で公表しています。

<http://journals.iss.org/index.php/proceedings59th/article/view/2587>

<https://iss2015.sched.org/event/3iYZ/disaster-management-challenges-for-computer-supported-process-and-project-management>

Q 苦労された点は？

A 共同研究の海外発表や論文審査で外国人レフリーの時差に合わせた昼夜逆転の生活で体調を壊しました。外国発表は文科省「国際化や海外発信」に合致し、教育還元する試みだが、院生が質疑できず苦労しました。

Q 「正課教育へ還元する工夫」とは？

A 欧米専門家の前でのスピーチは、発表途中の急な質疑等、英語ディベートの意思疎通に苦慮してきました。欧米人に発表内容を正確に伝える対策として、パワポでイメージ・数値を図表に「可視化」する工夫をしました。



Q 国際共同研究に参加した学生の反応は？

A 国際システム科学学会における欧米専門家へのプレゼンテーションで、院生は質疑応答ができず、私が査読レフリー対応から論文執筆までカバーしたのが現状です。学生には、この貴重な経験を将来に活かして欲しいと考えています。

Q 費用は？

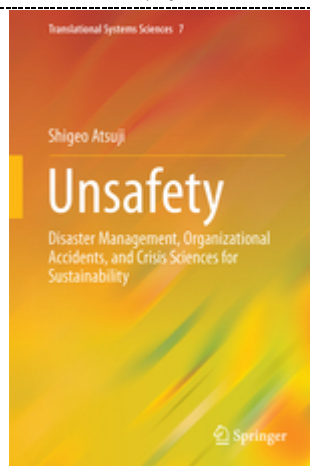
A 文科省科学研究より渡航費や滞在費の補助を受けました。以下に、この研究成果報告を公開しています。

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24530437/>

<https://kaken.nii.ac.jp/file/KAKENHI-PROJECT-24530437/24530437seika.pdf>

Q 今後の展開は？

A 災害・事故による被害を最小限に抑制する減災研究は、災害前の防災、災害時の危機管理、被災後の復興のプロセスを体系的に研究し、今後の減災にICTを活用する試みです。以下の著書に、詳細を掲載しています。



Unsafety

Disaster Management, Organizational Accidents, and Crisis Sciences for Sustainability

Authors: **Atsui**, Shigeo

Table of contents (9 chapters)

- Carbonized Terra: Paradox of Civilization
- The Fukushima Nuclear Catastrophe: Systemic Breakdown and Pathology
- Our Stolen Sustainability: Contamination by Environmental Hormones
- Crime or Punishment: Brakeless Accidents without Compliance and Governance
- Lost Trust: Socio-biological Hazard—From AIDS Pandemic to Viral Outbreaks
- Boiling Globe: Cumulative Thermal Effluent from the World's 441 Nuclear Reactors over 40 Years
- Escape from Disaster: Invisible Informatics of Risks and Crises
- Crisis Sciences for Sustainability beyond the Limits of Management and Policy
- Remaking Eco-civilization by Sustainable Decision-Making

URL: <http://www.springer.com/us/book/9784431559221>

発行: 関西大学国際部 <http://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/>



KANSAI UNIVERSITY